



会員寄稿

生徒一人ひとりの進路実現のために

第3学年主任 伊豫田 孝幸

第1グラウンドのイチョウが黄金色に染まり、大洲高校の秋も深まってきました。4月、3年生は「Big Jump!」をテーマに掲げ、限界を設けず大きく飛躍することを誓いスタートしました。早いもので、卒業まで残すところあと4か月。これからは、数々の関門を経て、自らの進路を決定していく重要な時期を迎えます。

その登竜門となる大学入試センター試験は、1月19日(土)、20日(日)に実施され、昨年度は約58万人が受験をしました。1日目は、9時30分より地歴、公民、国語、英語を18時10分まで、2日目は9時30分より数学と理科を17時40分まで受験するという、学力のみならず気力や体力まで試される試験となっています。その後、生徒たちは自己採点を行い、その結果を元に、前期日程(2月25日～)・後期日程(3月12日～)・一部公立大学の中期日程(3月8日～)の出願を1月28日より2月6日の間に行います。そして受験に臨むわけですが、この間、2月前半を中心に実施される私立大学の入学試験を挟み、後期日程の合格発表(愛媛大学は3月22日)まで長く厳しい試練の時期が続きます。

ところで、文部科学省は9月18日、入学定員を1人でも超えた場合に2019年度から超過人数に応じて助成金を減額するとした罰則強化策の導入を当面見送ると発表しました。文科省はこれまで、入学定員充足率を超えた大学に対する助成金不交付基準を厳格化し、2016年度は117%、2017年度は114%、2018年度は110%と段階的に厳しくしてきました。この結果、松山大学では経済・経営・人文・法学部合計の正規合格者が、2017年度の1519人から2018年度は1185人と大幅に減り、入試が難化しました。また、追加合格者数は、2017年度の134人から2018年度は406名と大幅に増えました。昨年度の二次追加合格の発表は入学式11日前の3月23日で、他大学へ入学金等を払い込み、住むところを決定した後に追加合格があり、進路について大きく悩んだ家庭もありました。このような混乱を回避するため、文科省は2019年度入試は2018年度の充足率を継続することとしましたが、他大学も含め、難化したこの傾向は今年も続くと思われれます。そのため、受験校選定に際しては、細心の注意を払い、万全な受験計画を立てることが肝要です。保護者懇談会で担任とよく話し合ってくださいようお願い致します。

12月に入り、センター試験まで50日を切りました。教科指導はもちろん生徒の心のケアまで、講じることのできる手立ては全て行って受験に送り出したいと思っています。保護者の皆様におかれましても御家庭での生徒の体調管理などバックアップしていただき、生徒たちが、Big Jump!できるよう、共に支えて参りましょう。

